

令和 8 年度第 1 回大学等の質保証人材育成セミナー

演習編 事前ワークのご案内

質保証を「動かす」8つの機能から、自大学の状況を考える

1. このワークのねらい

今回のセミナーでは、英国 2 大学への訪問調査から得られた実践をもとに、大学において質保証・質向上を実際に「動かす」ために必要と考えられる機能を、8 つに整理して紹介します。

ここでいう 8 つの機能は、特定の大学や英国の公式な質保証モデルではありません。また、8 つの制度や組織を新たに設置することを求めるものでもありません。

今回考えたいのは、

自大学では、教育上の変化や課題にどのように気づき、その意味を考え、関係者で話し合い、改善を決め、実施し、その結果を確認しているのか

という、実際の仕事の流れです。

正式な制度として整備されていなくても、

- 学科会議で学生調査の結果について話している
- 教務委員長が気になる成績分布を関係教員へ伝えている
- 学生からの意見をきっかけに授業やカリキュラムを変更した
- FD 担当者が、課題を抱える教員と専門家をつないでいる
- 外部評価で得た助言を翌年度の改善に使っている

といった日常的な取組も、質保証・質向上を「動かす」重要な実践です。

逆に、制度や会議はあるが、実際にはあまり使われていない、という状況もあるかもしれません。

今回のワークでは、制度の有無をチェックするのではなく、

- 比較的うまく動いているところ
- 少し気になるところ
- 情報や意思決定が詰まっているところ
- 特定の人の個人技に依存しているところ

を具体的に考えます。

そして、他大学の参加者との意見交換を通じて、

今ある情報・会議・人・仕組みを少し違う形でつなぐことで、自大学の質保証・質向上をもう少し動かせないか

を考えることを、この演習のねらいとします。

2. 事前をお願いしたいこと

事前にお送りする「ワークシート」に、8つの機能それぞれについて、

- 1) 自大学では実際にどのようなことをしているか
- 2) 現在の状況をどう考えるか
- 3) 少し変えるとすれば、どのようなことが考えられるか

を、共有可能な範囲で簡単に記入してください。

すべての機能について詳しく書く必要はありません。

「よく分からない」「制度はあるが実際にはどう動いているか分からない」という記載でも構いません。それ自体が、自大学の質保証を考えるための重要な手がかりになります。

また、機密情報や個人情報を記入する必要はありません。

3. 8つの機能について

当日の講演の際に説明させていただきますが、ワークのために必要最低限の説明を行います。

① 気づく

ー シグナルを拾う機能

学生の学びや教育の実施状況に生じた変化、兆候、違和感を早めに見つける機能です。

大学であれば、例えば、

- ・ 成績・単位修得率の変化を見る
- ・ 学生調査の結果に気になる変化を見つける
- ・ 学生や教員から寄せられた声を拾う
- ・ 休退学や履修状況の変化に気づく

といったことが考えられます。

誰が、いつ、何を見て「少し気になる」と感じているのでしょうか。

② 読む

ー 情報を翻訳する機能

得られたデータや情報について、背景や文脈とあわせて「何が起きているのか」を考える機能です。

大学であれば、例えば、

- ・ 学生調査の数値を学科の状況とあわせて考える
- ・ 成績分布の変化について担当教員の意見も聞く
- ・ 単純な大学平均だけでなく、学年・学科・学生層等に分けて見る
- ・ 複数のデータや学生声を組み合わせて原因を考える

といったことが考えられます。

数字を見て終わるのではなく、その意味を誰が読み解いているのでしょうか。

③ 話す

ー 対話を起こす機能

データや情報を判定材料として一方的に示すのではなく、関係者が「どう考えるか」を話し合う材料として使う機能です。

大学であれば、例えば、

- 学科会議で学生調査の結果について原因を話し合う
- 授業担当者同士で学修成果について意見交換する
- IR 担当者と教員が一緒にデータを見る
- 学生の意見をもとに教職員が改善策を検討する

といったことが考えられます。

報告する場だけでなく、「何が起きているのか」を考えられる場があるでしょうか。

④ 決める

ー 改善を決める機能

課題について、何を改善するのか、誰が担うのか、どのレベルで判断するのかを決める機能です。

大学であれば、例えば、

- 授業方法の変更を担当教員が決める
- カリキュラム変更を学科・学部で決める
- 全学的な支援が必要な課題を執行部へ上げる
- 複数の課題の中から優先順位を決める

といったことが考えられます。

話し合った後に、誰が何を決められるようになっているでしょうか。

⑤ 支える

ー 支援・資源につなぐ機能

現場だけでは解決できない課題について、必要な人、専門性、情報、予算、仕組み等につなぐ機能です。

大学であれば、例えば、

- IR 部門が必要な分析を支援する
- FD・教育開発担当が授業改善を支援する
- 学生支援部門と学科をつなぐ
- 学部だけでは解決できない課題を全学的な支援につなぐ

といったことが考えられます。

困った現場が「自分たちだけで何とかする」状態になっていないでしょうか。

⑥ 開く

ー 外の視点を入れる機能

大学・学部の中だけで考えるのではなく、学生、卒業生、他大学の教員、外部専門家、企業等の

視点を取り入れる機能です。

大学であれば、例えば、

- 学生との意見交換を教育改善に使う
- 卒業生・企業から教育内容への意見を聞く
- 外部評価者や外部委員から助言を得る
- 他大学の教員に教育プログラムを見てもらう

といったことが考えられます。

外から得た意見が、聞いて終わりではなく、実際の判断に使われているでしょうか。

⑦ 確かめる

— フォローする機能

改善を実施した後に、実際に何が変わったのか、改善策が効いたのかを確認する機能です。

大学であれば、例えば、

- 翌年度に同じデータを確認する
- カリキュラム変更後の学生の反応を見る
- FD 実施後に授業の変化を確認する
- 改善計画の進捗状況を定期的に確認する

といったことが考えられます。

「改善しました」で終了せず、その後を確認しているでしょうか。

⑧ 学ぶ・残す

— 組織に記憶する機能

なぜその判断をしたのか、何を改善し、その結果がどうだったのかを、次年度や後任者、他の人が使える形で残す機能です。

大学であれば、例えば、

- 改善を決めた理由を記録する
- 改善後の結果を次年度へ引き継ぐ
- 有効だった取組を他学部へ共有する
- 担当者が異動しても経緯が分かるようにする

といったことが考えられます。

記録を保存するだけでなく、過去の経験が次の判断に使われているでしょうか。

4. 特に考えていただきたいこと

8つの機能を記入した後、全体を眺めてみてください。特に、

その担当者が異動・退職しても、同じように動くだろうか？

という視点で考えていただければと思います。

「〇〇先生がいるからうまくいっている」「あの IR 担当者に聞けば全部分かる」という状況は、大きな強みである一方、組織としては課題を含んでいる可能性があります。

逆に、担当者が替わっても、

- 必要な情報が届く
- 話す場がある
- 誰が判断するか決まっている
- 改善後を確認する
- 過去の判断が残っている

のであれば、その取組は組織の機能として定着していると考えられます。

5. 当日の演習について（予定）

当日は、事前に記入いただいたワークシートを用いて、少人数で意見交換を行います。

当日の参加人数や議論の状況に応じて、進め方や時間配分を変更する場合があります。

現時点では、概ね次のような進行を予定しています。

① 自大学の状況を紹介する

各グループで参加者のみなさんから

- 比較的うまく動いている機能
- 気になっている、または詰まっている機能
- 具体的にどのような場面なのか
- 少し変えるとすれば何ができそうか

を、簡潔に紹介していただきます。

当日は、8つの機能をいくつかのまとまりに分けて意見交換したり、各グループで特に関心の高かった機能を重点的に取り上げたりする場合があります。

例) ①②③、④⑤⑥、⑦⑧をセット話す方式、班で1～2機能を深掘り等

② 他の参加者と意見交換する

他大学の参加者のみなさんは、報告者の方に

- 「本学では似た場面でこうしています」
- 「その情報は誰が見ていますか」

- 「本当にそこがボトルネックでしょうか」
- 「その会議では何かを決められますか」
- 「別の部門につながと動きそうではありませんか」
- 「その担当がいなくなった場合はどうなりますか」

といった質問・コメントをしてあげてください。

正解を決めることではなく、他大学の実践を鏡として、自大学の仕組みをもう一度見直すことを目的とします。

③ 他大学の実践からヒントを拾う

当日は、別紙のメモ用シートも配付します。

他の参加者の話を聞きながら、

- 面白いと思った実践
- 自大学との違い
- 自大学でも使えそうな工夫

などを自由にメモしてください。

事前ワークシートは自大学を深く考えるためのもの、当日用メモシートは他大学からヒントを持ち帰るためのものとして使用します。

④ 最後に、何かを持ち帰る

演習の最後には、各班からの報告をしていただきます。それを聞きながら、

自大学で、まず一つ試してみたいこと

を考えて、メモして、実際に試していただければ、と思います。

8つの機能をすべて完璧にすることが目的ではありません。

新しい制度や委員会を設置することを前提とするのでもありません。

今ある情報、会議、人、仕組みを、少し違う形で使えないか。

という視点から、小さな改善の糸口を一つ持ち帰っていただくことを目指します。

6. 事前ワークにあたって

ワークシートは、完成された「正解」を書いていただくものではありません。

むしろ、

「書いてみたら、誰がやっているのか分からなかった」

「制度上は決まっているが、実際には動いていない気がする」

「逆に、制度化されていないのに意外とうまく回っている」

といった気づきを、ぜひ当日の議論へ持ってきてください。

自大学の取組を評価するためではなく、参加者同士で具体的な実践を持ち寄り、質保証・質向上を実際に動かすためのヒントを一緒に探すためのワークです。